

第1章 これまで～past～

これまでと、これから

＜医療法人メディカルビットバレー＞の立ち上げから2年



渋谷先生が書いた
ブログ(note)「原点」は
コチラから。

● 済谷先生(以下、先生)
● 総合診療医
● 新潟県長岡市生まれ
● 弘前大学医学部卒業

先生：いえいえ、当時は誰にも相手にされなかつたんですよ。でも、今までにない医療システムを作るんだという思いを抱き、土地を見つけ、仲間と言える先生が集まり、建物を造り始め〈エールホームクリニック〉がスタートしてからはずつとこのスピード感ですね。

編：2021年4月から、取材を通して〈MBV〉のスピード感と変化を目の当たりにしてきました。2020年の〈エールホームクリニック〉立ち上げ時から、この勢いはあつたのでしょうか？

渋谷先生(以下、先生)：そうですね。当時から掲げている理念「地方の医師不足解消と、総合診療医として医療を通じた社会問題の解決をしたい」という思いは今も少しも変わりません。そして、そのとき思い描いていたことが今、現実になっています。

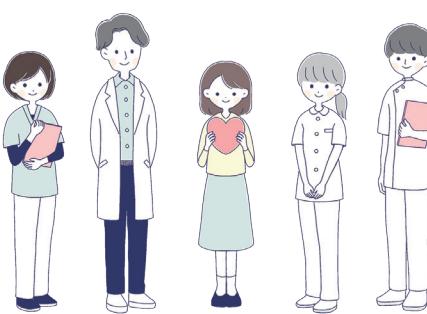
編：〈MBV〉開設から2周年となる4月に、渋谷先生が書かれたブログ「原点」を拝読し、そこについた動画も拝見させていただきました。先生の言動は2年前からまったく違っていないと感じました。

原点、変わらぬ思い

壁がこの世で一番キレイ

明かりが灯り、 見えてきた世界

2020年4月に〈医療法人メディカルビットバレー〉(以下、MBV)を立ち上げ、同年10月に〈エールホームクリニック〉を開設。さらに、今年の3月に〈エールワクチンセンター〉を千秋にオープン。2023年秋には、長岡駅前に〈エールワクチンセンター〉を開設予定と、邁進するMBVの理事長で医師でもある渋谷裕之先生に、これまでとこれからをテーマにお話しをお伺いました。



編：ハード面でも、ソフト面でも「ワンフロア」ということでしょう。つまり、壁がなく同じ視点であるということです。まず、ハード面で言うと、このクリニックはワンフロアに複数の診療科があります。1人の患者を数人の医師で検討することもあります。主治医ではなく、クリニックの医療者とスタッフ全員で対応するスタイル、いわゆる「チーム医療」ですね。

先生：はじめスタッフの皆さんが楽しそうに働いているのが印象的です。皆さん心の壁もないのでしょうね。

先生：そうそう！ 皆、同じ思いで働けるからスピード感をもつて邁進を続けられます。



編：爆発はどのタイミングだったのでしょうか？

先生：少しずつ、小さな明かりが灯されるように広がつていった感じがありました。それが、あるとき突然爆発して、自分が抱いてきた理念には潜在的に「二ズ」があったとわかりました。

編：この怒涛とも言える2年間を振り返ってみて、いかがですか？

先生：少しずつ、小さな明かりが灯されるように広がつていった感じがありました。それが、あるとき突然爆発して、自分が抱いてきた理念には潜在的に「二ズ」があったとわかりました。

編：誰にも相手にされなかつたのが、わずか2年前になんて信じられません。今年の春には〈エールワクチンセンター〉を開設、そして来年の秋には駅前に〈エール長岡クリニック〉オープン予定と、このスピード感の要因は何でしょうか？

編：誰にも相手にされなかつたのが、わずか2年前になんて信じられません。今年の春には〈エールワクチンセンター〉を開設、そして来年の秋には駅前に〈エール長岡クリニック〉オープン予定と、このスピード感の要因は何でしょうか？

2020年4月に〈医療法人メディカルビットバレー〉(以下、MBV)を立ち上げ、同年10月に〈エールホームクリニック〉を開設。さらに、今年の3月に〈エールワクチンセンター〉を千秋にオープン。2023年秋には、長岡駅前に〈エールワクチンセンター〉を開設予定と、邁進するMBVの理事長で医師でもある渋谷裕之先生に、これまでとこれからをテーマにお話しをお伺いました。

教えてドクター！

先生への質問はP15の読者プレゼントの「ご意見・ご要望欄」からお寄せください。
※取材協力〈エールホームクリニック〉☎0258-86-8722

内科	Q 今年は花粉症の症状がひどかったので、舌下免疫療法に興味があります。20歳女性	皮膚科	Q 知り合いが皮膚癌になったと聞き不安です。43歳男性
	A 舌下免疫療法は、体をアレルゲン(アレルギーの原因となる物質)に慣らし、体質改善を図るアレルゲン免疫療法の1つです。現在はスギ花粉症やダニアレルギー性鼻炎に対する治療があります。治療薬を少量ずつ舌の下に投与する治療を毎日継続することで、鼻炎などのアレルギー症状が和らいだり、使用する薬の量を減らせたりするようになります。3年以上の長期治療が勧められ、服用開始初期はアレルギー反応に注意が必要です。スギ花粉症の場合、アレルゲンへの体の反応が過敏になっているスギ花粉飛散時期を避け、夏以降に治療を開始します。		A 皮膚癌というとホクロの癌のメラノーマが有名ですが、実は皮膚癌で一番多いのは基底細胞癌です。多くは高齢者の顔面に発生しますが、まれに30代での発症もあります。一般的に黒い色をしているのでホクロと間違われることがありますが、放置すると大きくなり、中央部がくずれたり出血することもあります。転移はまれで完全切除すれば根治する確率は非常に高くなります。皮膚癌は、内臓の癌と異なり目に見えるため早期発見が可能です。皮膚に気になるシミやできものができた場合は、皮膚科医に受診することをお勧めします。
ここがポイント！	3年以上の長期治療を施し、 体質改善を促す免疫治療です。	ここがポイント！	ホクロやシミと見分けが付きにくいので、 気になったら皮膚科へ！